

農林水産大臣賞（被害防止部門（個人））

集落環境点検やニホンザルのテレメトリー調査をはじめ、捕獲檻や追払い資材の製作など多岐にわたり活躍。

また、滋賀県獣害対策アドバイザーとして、湖東地域を中心に、獣害対策の推進に貢献。

いちえん けんいち

一円 憲一

主な取組

たがちょう
滋賀県多賀町

- ニホンザルの生息域調査に尽力し、特に初期においては調査方法の確立に貢献。調査で使用する機器や電気柵の構造等にも精通しており、多方面でその力を発揮。
- 集落における侵入防止柵の設置後、柵の管理について、地域住民に声をかけ、柵の管理を行う「電気柵保全会」の設立を主導し、侵入防止柵の適正な維持管理の徹底を組織的に進め、2か月に1回の保全点検を計画的に行える体制づくりに尽力。
- サル捕獲用木製檻の設計・製作を行うとともに、多くの人が自作できるよう、組み立て図や使用方法のマニュアルなども併せて作成。市販の鉄製檻に比べ小型で取り扱いやすく設置が容易で、効果も大きかったことから、町内だけでなく近隣市町へも導入が進展。
- 自身が現場を踏まえて蓄積した獣害対策関係技術について、これまでの記録をマニュアル化し、技術の伝承に尽力。

【被害金額（多賀町）】

約5,100万円（平成21年度（活動開始前））→約70万円（令和3年度）

農林水産大臣賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

鳥獣被害をはじめとした地域課題に立ち向かうため、若手農家が自ら会社を立ち上げ、農業生産を中心に、新商品開発、農作業受託、狩猟活動を実施。ジビエ処理施設やレストランとも協業し、狩猟・ジビエを活用した地域活性化の活動を通じて、地域課題の解決に貢献。

株式会社 ひなたや 日向屋

（代表取締役：岡本 おかもと 和宜 かずのり）

主な取組

和歌山県田辺市

- 地域内のジビエ解体処理施設やジビエ料理店との連携により、捕獲から処理・加工、調理、販売の連続した体制を構築し、捕獲個体を地域資源（ジビエ）に、施設を観光・体験資源にと、地域を巻き込んだ取組へと発展させることで、周辺農家の鳥獣害対策の意識改革にもつながり、地域全体の鳥獣害対策と活性化に貢献。特に、ジビエの安定供給を図るため、地域内の農家によるわな捕獲を支援するとともに、地域外の捕獲協力農家との橋渡しも推進。
- 衛生管理ガイドラインの遵守等に取り組むジビエ処理施設に与えられる「わかやまジビエ処理施設衛生管理認証」を取得しているほか、個体の引き取りに関するガイドラインを作成し、ジビエの品質の維持を確保。
- ICT技術の導入による捕獲活動の効率化、小中学生向けにジビエへの理解を深める食育活動、定住人口や関係人口の増加に力を入れるなど、多様な人材を確保。また、耕作放棄地を解消し果樹園に再生することで、鳥獣被害を軽減。

【利活用頭数】

取組開始前 平成29年度：0 → 令和3年度：600頭

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

地域と県・市等が連携して集落に働きかけ、住民が主体となって獣害対策に取り組むモデル集落に対し、住民がデータ等に基づき捕獲を実施する体制を整備。緩衝帯の整備やSNSを活用した情報共有、ICT技術の活用も積極的に推進。

しろうしゆうがいちようじゆうたいさくすいしんきょうぎかい 宍粟市有害鳥獣対策推進協議会

（会長：樽本 勝弘）
ひょうごけんしろうし
兵庫県宍粟市

主な取組

- 専門家を講師に迎え、①地域主体の獣害対策の基本、②被害の原因となる集落の課題整理、③檻の設置場所、捕獲指導、センサーカメラのデータを基にした定期的な捕獲の研修会、④集落柵や電気柵の技術研修等を実施。定期的な研修により課題の共有ができ、捕獲効率の向上につながっている。併せて、集落ごとにLINEグループを結成し、わなの設置・捕獲状況等をメンバー間で情報共有。
- 人と野生動物の棲み分けを実現するため、集落と林縁部の間への緩衝帯の整備、放置竹林の間伐等を実施。また、集落における被害対策活動の継続を図るため、環境整備を目的としたチェーンソーなどの機材を導入。
- 電気柵を張るだけでなく、専門家による研修を開催し、電気柵の仕組みや設置のポイントを指導。その結果、農作物の被害割合がほぼゼロになったほ場も存在。
- 捕獲従事者等の担い手に向けに研修会を開催し、集落からの推薦で狩猟免許を取得した場合、免許取得費用は市が全額負担するなど、継続的な活動を行うための技術者を育成。

【農作物被害金額（皆木集落）】

約303万円（令和2年度）→ 0円（令和3年度）